

第21回へブンアーティスト審査会 審査講評

第21回へブンアーティスト審査会の席上でのコメントを紹介します。審査の基準がよく分からないというアーティストや、今後自分のどこを改善し、どこを伸ばせばよいか分からないというアーティストにとって、これまで見えていなかった視点を示す光明になれば幸いです。

これからへブンアーティストとして活動するスタート地点に立ったアーティスト、これからへブンアーティストの審査を受けようとするアーティスト、全てのパフォーマンスアートや音楽演奏の道を志すアーティストに対し、さらに技術や魅力を伸ばしてほしい、また、既存の枠や殻から突き抜けてほしいというメッセージを込めています。

(審査について)

「へブンアーティスト審査会」も今回で21回目を迎えました。

今回は、新型コロナウイルス感染症流行の影響のためか、パフォーマンス部門77組、音楽部門40組の合計117組と、例年の約半数の応募となりました。

一次審査では、応募者が提出した動画を視聴し、魅力や独創性、将来性を感じ、観客を前にした実演を実際に見てみたいと思われるアーティスト（パフォーマンス部門41組、音楽部門5組の合計46組）を一次審査通過者として選定しました。

二次審査は、東京芸術劇場の劇場前広場で、観客の前で約15分の公演を行ってもらい、その様子を審査しました。実演にあたっては、へブンアーティスト活動を実際に行う際に必要な感染拡大防止ガイドラインを守り、マスク着用等の条件のもとで審査を受けました。

(審査講評について)

実演を見た直後に行う審議であがった、審査の基準や評価の考え方の参考になるようなコメントを部門別に紹介します。

(パフォーマンス部門)

合格点に達したアーティストの評価できる点としては、以下のとおりです。

- 登場の一瞬で人目を惹く魅力があり、コンビネーション、ダンスとしての美しさ、衣装・造形も含めてよく作りこまれており、大変すばらしいショーだった。
- 既にプロの領域に達しており、審査員が芸を堪能できた。
- 雰囲気や衣装、さらにマスクまで徹底して、独特の世界観を表現していた。今回使用した道具を扱うための手の形や動きの美しさがあり、技術以上のものを感じた。
- 道具を自作しているところや衣装・道具・マスクなど観客が目にするものをトータルとして工夫していた点に好感がもてた。
- 二人の掛け合いに元気があってよかった。
- 全体の空気づくりがよく、こなれた感じで失敗の処理もうまかった。
- 大道で踊るための板の配置などに工夫がみられるとともに、衣装のセンスが非常によく、

全体的にチャレンジの姿勢を強く感じた。

- 一種目に絞った構成は挑戦的でよかったし、道具の扱いが卓越しており、技術的に文句なしだった。
- オーソドックスな内容だが、通りがかりにたまたまみかけた観客が「大道芸は楽しい気分にしてくれるものだ」と思って帰路につくことができる、明るくユーモアのあるキャラクターで、得難いものがある。
- 披露した技が限られていたが、連携がうまくいっており、合格のレベルに達していた。また、台に上がって後方にいる観客にも見やすいよう工夫していた点は評価できる。
- キャラクターや緩急のある構成、さらに選曲もよく、技に安定感もあった。ダンス的なリズム感があり、技術の高さを使って、何ができるかを追求している姿勢を高く評価する。
- マイムのレベルがバラバラであったが、生演奏とダンスに見るべきものがあった。

一方で、あと一步届かなかったアーティストに対して改善を期待する点や、合格に達したアーティストでも評価につながらなかった点は、次のとおりです。

- コスチュームや小道具がキャラクターにあっていたが、創ろうとする世界観に対し、技の精度がいまひとつのためか表現力が追いついておらず、飽きがきてしまった。
- コンビとしての安定感がなく、危なっかしさを感じて、演技に集中することができなかった。危険な演技を行う場合、安全対策は基本であり、現在怪我をした状態での（万全ではない状態での）パフォーマンスであることをアピールして技の難易度を上げるようなことは、ヘブンアーティスト活動を行う上では認められない。
- キャラクターや話し方はよかったが、表現の技量が少し足りなかった。他の作品も見たいと思わせる可能性を感じるので、伝えたい内容と表現力を洗練させてほしい。
- ショーとして創っていかこうとする世界観を表現する意識が見られ、流れもよかった。よく練習していると思うが、技術的にもう一步頑張ってもらいたい。また、一点突破の心意気を感じるので応援したいが、道具が風に弱いという面があるため、屋外での活動との相性が心配である。
- 盛り上がり欠ける構成で、特に最後がいただけなかった。キャラクターが明るく好感もてるだけに残念だった。
- 構成がよく、音楽・衣装もおしゃれだった。コンビネーションもよく、印象的な演技でバリエーションも多く本当によかった。ミスをつたなさと思わせない力量もみてとれた。とはいえ、当審査会は技の完璧さを競うコンテストの場ではないのだが、ミスが続いてしまったことが大変残念であった。ヘブンアーティスト活動の場で存分に実力を発揮してほしい内容であるので、次のチャレンジを期待したい。
- 一般のパフォーマンスと異なる内容なので大道でこそやって欲しいという意見があった一方、衣装や化粧などが選んだキャラクターに適しておらず、話し方も含めてパフォーマンスとして大道の場で見せるレベルに至っていなかった。
- 一部の技はしっかりしていたが、構成として全体のつながりがよくなかった。動きの基礎を習得するとさらに良くなる可能性を感じる。
- 人柄の良さが一目でわかるキャラクターは好印象で、仕掛けに頼らずシンプルな技術で

見せる良さもあったが、パフォーマンスとしてあと一步だった。また、掛け声を出身国の言葉にかえるとさらにキャラクターが引き立つかもしれない。

- 会場の制約から解放感が足りなかったことも影響していると思われるが、ジャンルからイメージする楽しげな雰囲気やわくわく感というものを感ぜられなかった。掛け合いにギスギスしたところが見られるのも気になったので、再考してほしい。
- 淡々としたスタイルは、大道芸よりも劇場向きかもしれない。ただ、淡々と言っても見る側が没入できるまでの世界観には達していなかった。道具が手に吸い付くようなところがよかったが続き、まだこなれていない印象だった。
- 技のレベルが低く、演技をみているのがつらかった。演目をうたうならば、パフォーマンスとしてきちんと見せるべき。
- 技術が足りず、選んだ題材の不思議な感じが出せていなかった。
- オーソドックスな内容で地味で新しさはなかったものの、キャラクターが真面目で好感が持てる。あと一步頑張してほしい。
- 道具をいろいろともっていたが、ひとつしか使っていなかった。トークが単調に見えるのは、この芸をやるには年季が足りないのかもしれない。
- 難しいというアピールはミスが続くと見苦しいため、技の精度を上げてほしい。
- ハプニングをリカバーできず、全体のボリュームが少なくなってしまった。途中でショーをあきらめてしまったように見えた。
- パワフルでダイナミックな高度な技を披露しただけに、美術面でのちぐはぐさや細部に気を配っていないように見える点に目がいきま、結果として雑な印象が残ってしまうことが非常に残念だった。ヘブンアーティスト活動の場で演じる際に、改善を期待したい。
- 一次審査の映像でのアーティストチックな面を期待していたが実技で見られなかった点と、トークなしでも見せられるだけの力量があるのに説明がすぎた点が残念だった。
- ひとつひとつの技がぱっとするものでないところにもったいなさがあるので、工夫して作りあげた世界観を活かすために、ヘブンアーティストの活動の場で演技を披露しながら、技をもう一步進めてほしい。
- 技で見せ切ったが、トークが冗長でアピールが余計だった。
- トークが過剰だった。いじり方については好みがわかる。

(音楽部門)

音楽部門では、合格点に達するようなアーティストの評価できる点は、以下のとおりです。

- 明るいキャラクターで歌声もクリアで元気があり、ストリートに向いている。曲調の異なるオリジナル曲を用意していた点が評価できる。曲の組み合わせもよかった。
- マスクで歌うのは大変だったろうが、うまく対応していて好感がもてた。
- MCもこなれており、周囲の状況に対しても順応力があつた。
- 衣装等のビジュアルがよく、華があり、屋外で受ける要素がある。
- 選曲は単調で目指している方向性も見えないが、今までになかった形で、ぎこちなさが残る振付もパフォーマンスとしては面白い。

一方で、あと一步届かなかったアーティストに対して改善を期待する点や、合格に達したアーティストでも評価につながらなかった点は、次のとおりです。

- 無駄な音がなくメロディ性のバランスが良いが、屋外では弱い面がある。音楽性が高く、大道芸よりも室内に向いている。
- オリジナル曲だけで勝負できる力があるが、曲調とテーマが観念的で2曲とも似た雰囲気となっていた。
- MCは誠実さに好感がもてるが、人を引き付けるような工夫があるとよい。
- パワーや切迫感があるが、雑な感じを受けるので、演奏がもう少しこなれるとよい。
- 音楽性に関しては好みになるだろうが、ハッキリしている点は良いが、オリジナル曲は歌も曲調も似た感じ。声質がよいので、他人に聞かせるということを意識して、曲調や歌詞を工夫するとよいのではないか。
- 曲間の使い方やMCを工夫し、曲の紹介だけでなく、思いを伝えるなどしてもよいのではないか。
- 審査会に臨むにあたって選曲した強い理由があるのだろうが、わからなかった。
- 二人の演奏レベルは高いが、観客が興味をもつところへもっていけるだろうか。一方のソロの部分にもっと主張があってもよかった。
- 屋外でいかに人目をひけるか、ポイントが見えなかった。
- 詩の内容と演奏の強弱を考えてみてほしい。弱音が強すぎるように感じた。

(全体総括)

公開審査会で実演を見てみると粒がそろっていた印象でした。過去の審査講評を咀嚼して自身のパフォーマンスに反映する姿勢が感じられるという意見があり、今回の講評にも「あと一步頑張ってもらいたい」という期待を込めているので、残念な結果となった方も、来年以降、再度チャレンジしてほしいと思います。

なお、パフォーマンス部門に限りませんが、安全面での配慮を重ねてお願いします。本人にとっては慣れたパフォーマンスであっても、大道で演じるときには別種の安全対策が必要になってくるので、よく研究してください。観客と演者の安全は、第一に確保されていなければなりません。

パフォーマンスアートや音楽演奏の道を志す全てのアーティストに、さらなる飛躍を期待します。

ヘブンアーティスト審査会

審査委員長 森 直実

審査委員 (パフォーマンス部門) 芦部 玲奈、田中 未知子、乗越 たかお
(音楽部門) 梶 奈生子、松村 正人